

令和4年11月24日（木曜日）
感染症対策センター 感染症対策企画グループ
感染症対策企画監 植村 武彦
直通 055-223-1321（内線1405）

福祉保健部 健康増進課
課長 宮澤 健一
直通 055-223-1493（内線3500）

報道関係者各位

新型コロナウイルス感染症後遺症調査（概要）の公表について

県では、県内における新型コロナウイルス感染症の罹患後症状（後遺症）の実態を把握するため、罹患者を対象に後遺症調査を実施しました。

この度、調査結果概要を別添のとおり取りまとめ公表しますので、お知らせします。

●調査目的

新型コロナウイルス感染症の後遺症の実態を把握し、後遺症に関する県民理解の促進とともに、今後の新型コロナ対策への活用を図る。

●調査時期

令和4年10月7日（金）～10月20日（木）

<公表資料>

●新型コロナウイルス感染症後遺症調査結果（概要）

問い合わせ先

感染症対策企画グループ

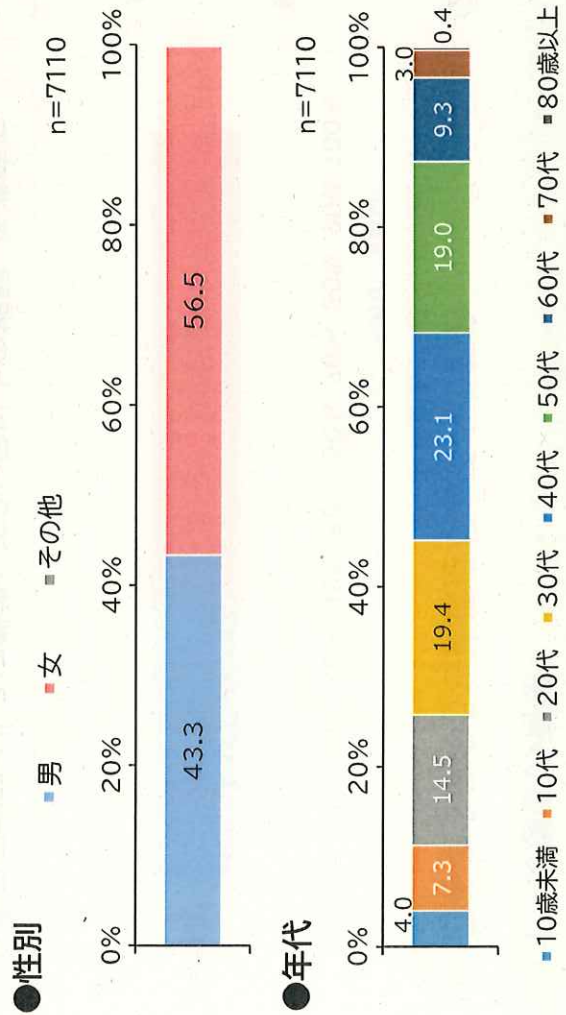
情報・企画 長沼

TEL：055-223-1321（内線1408）

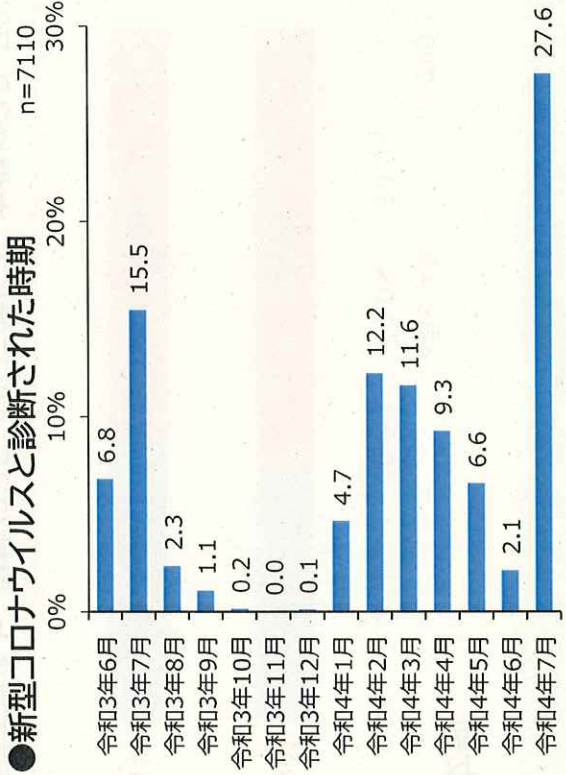
1 調査概要

- 調査目的
 - 新型コロナウイルス感染症の罹患後症状(いわゆる「後遺症」)に関する実態を把握し、公表することにより、後遺症に関する県民理解の促進を図るとともに、今後の医療提供体制整備等のコロナ対策に活かす。
- 調査対象
 - 令和3年6月～令和4年7月の間に新型コロナウイルス感染症に罹患した者 約42,000人
- 調査方法
 - インターネットのアンケートフォームにより回答
- 調査時期
 - 令和4年10月7日(金)～10月20日(木)
- 回答者
 - 7,110人(回答率:約17%)
- 留意事項
 - 当該調査結果は、調査対象のうち回答があったものについて集計等したものであり、実際の感染者の状況と回答者の性別や年齢構成が必ずしも一致していないことから、個々の項目を評価するには注意を要する。

2 回答者の属性



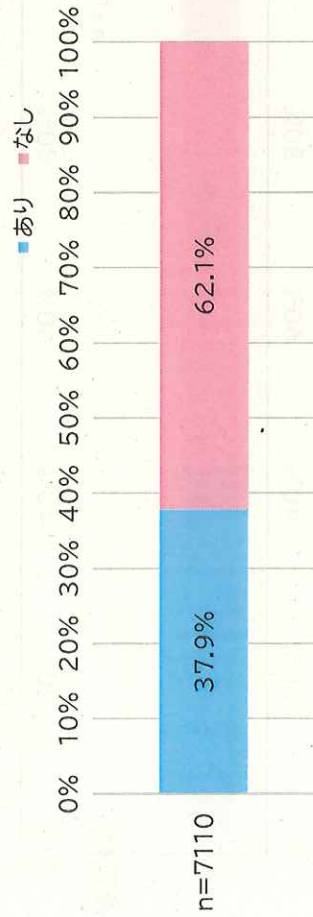
●新型コロナウイルスと診断された時期



3 アンケート結果

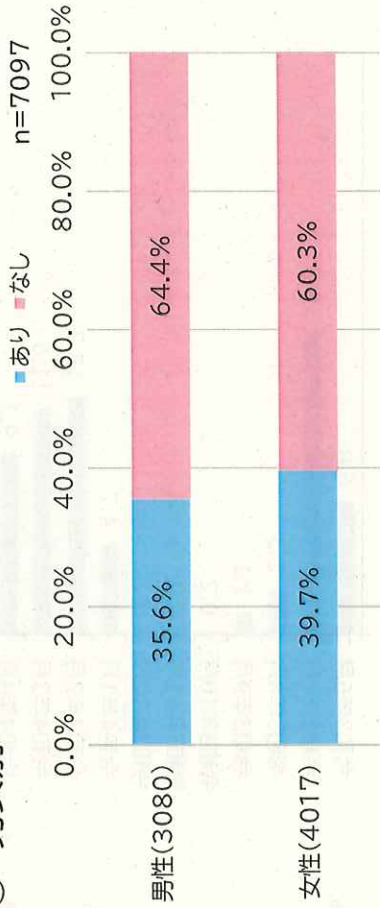
(1) 後遺症の有無

① 回答者全体のうち後遺症がある人の割合
(「無回答」を除く。以下同じ。)



・ 新型コロナウイルスに感染して2ヶ月以上の期間、後遺症を疑い症状がある人は、回答者の37.9%(2,692人)。

② 男女別



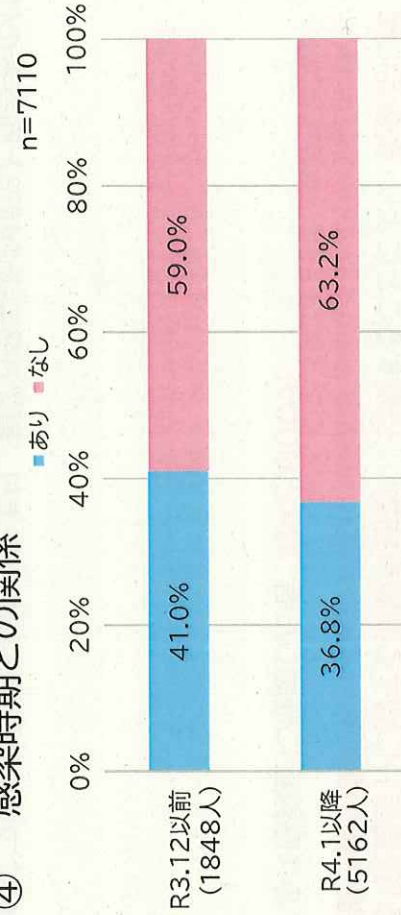
・ 男女別で見ると、男性の35.6%に対して、女性は39.7%であり、女性の方が4.1ポイント高かった。

③ 年代別



・ 年代別では、30代、40代、50代における後遺症がある人の割合が他の年代より高かった。

④ 感染時期との関係

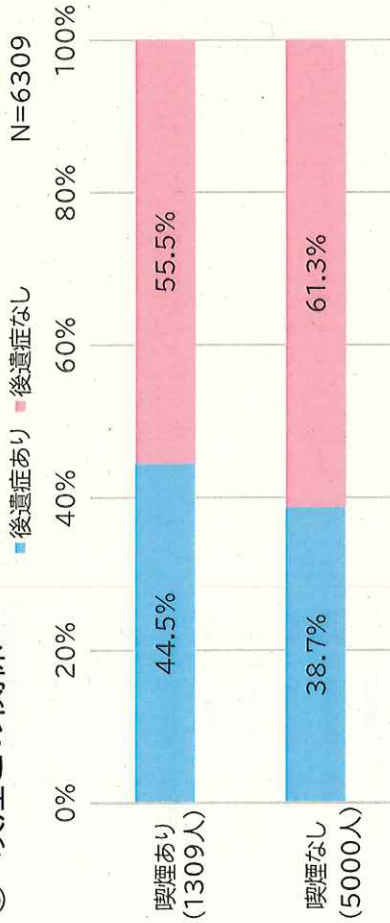


・ 感染時期についてオミクロン株が主流となった令和4年1月の前後と比較すると、オミクロン以前の人についての割合が4.2ポイント高かった。

3 アンケート結果

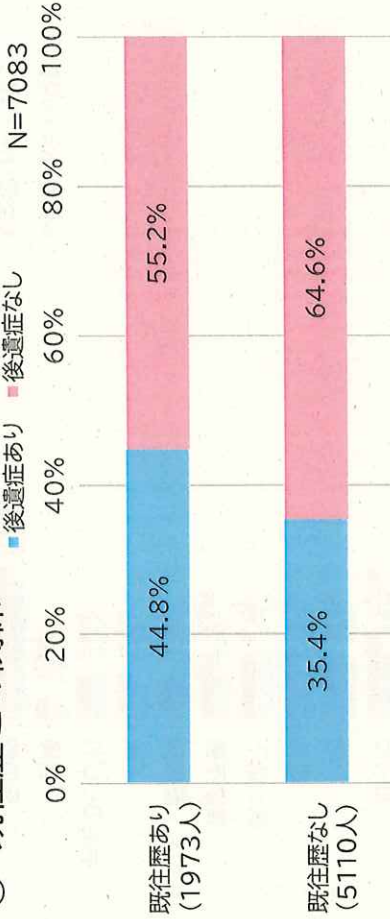
(1) 後遺症の有無

⑤ 喫煙との関係



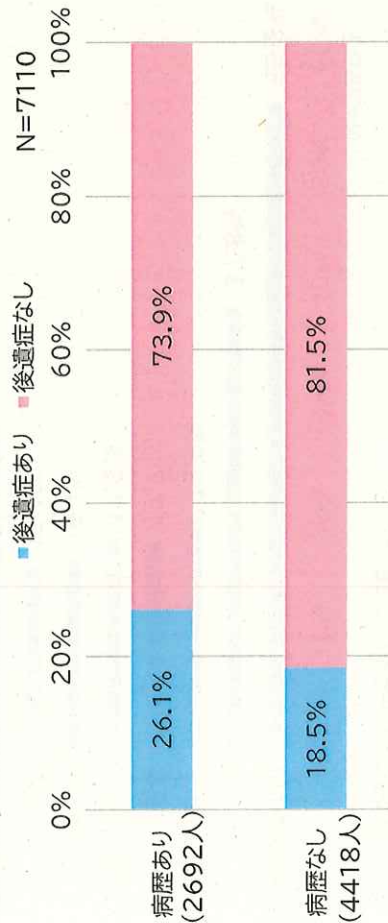
・ 成人の回答者について喫煙の有無で比較すると、喫煙の方が5.8ポイント高かった。

⑥ 既往歴との関係



・ 既往症が有無で比較すると、既往症があるの方が9.4ポイント高かった。

⑦ 現在治療中の病歴との関係

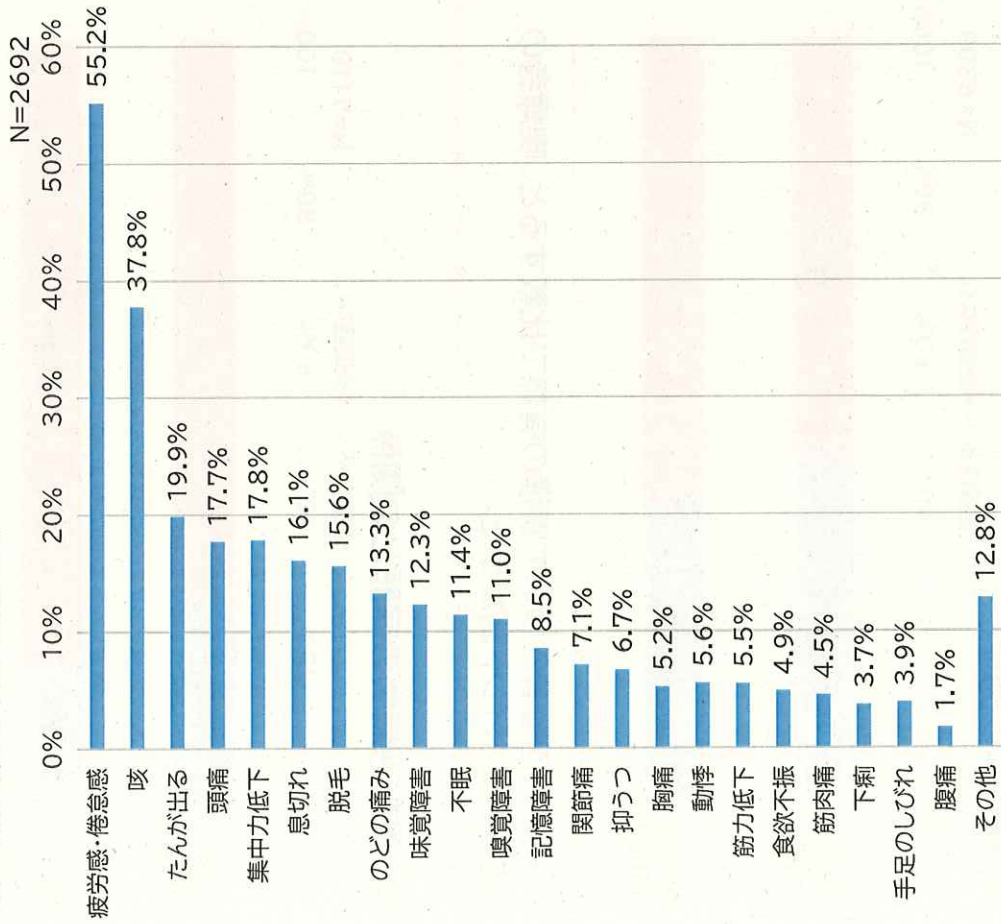


・ 現在治療中の病歴の有無で比較すると、現在治療中の病歴があるの方が7.6ポイント高かった。

3 アンケート結果

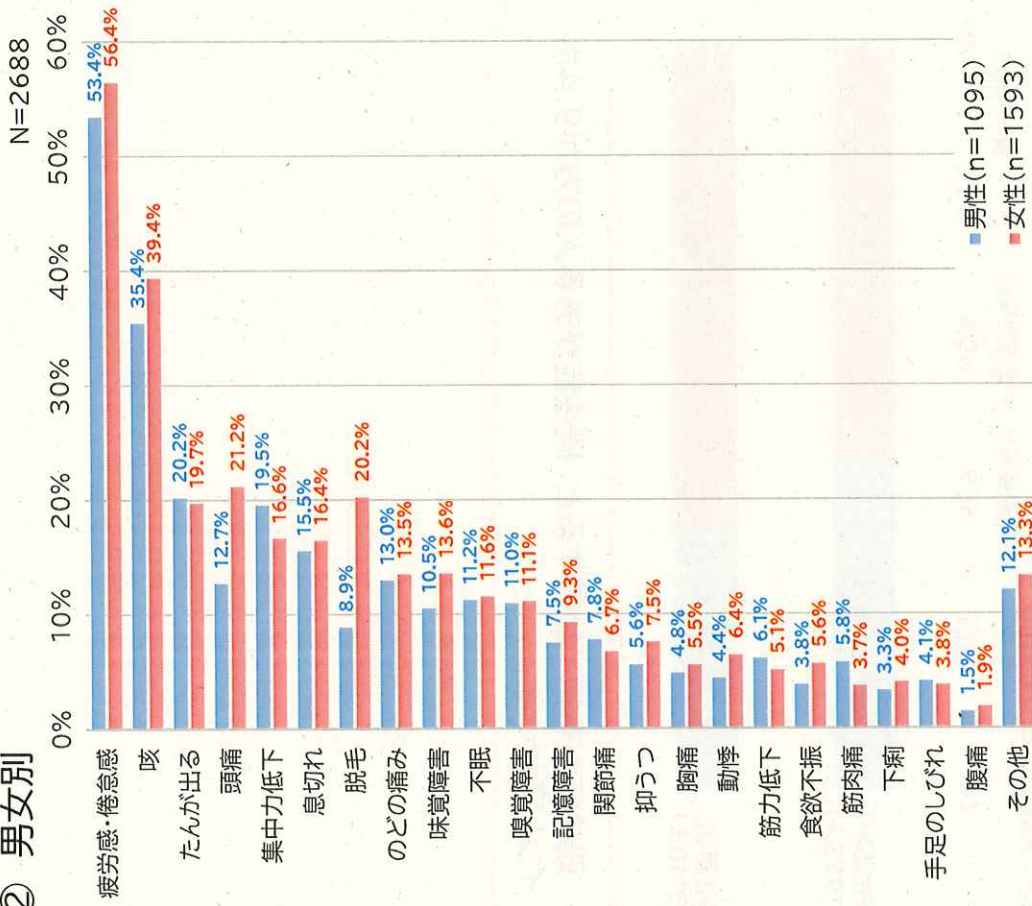
(2) 症状

① 後遺症で現れた症状



・ 後遺症で現れた症状としては、「疲労感・倦怠感」が最も多く、「咳」「たん」の順番となっている。

② 男女別

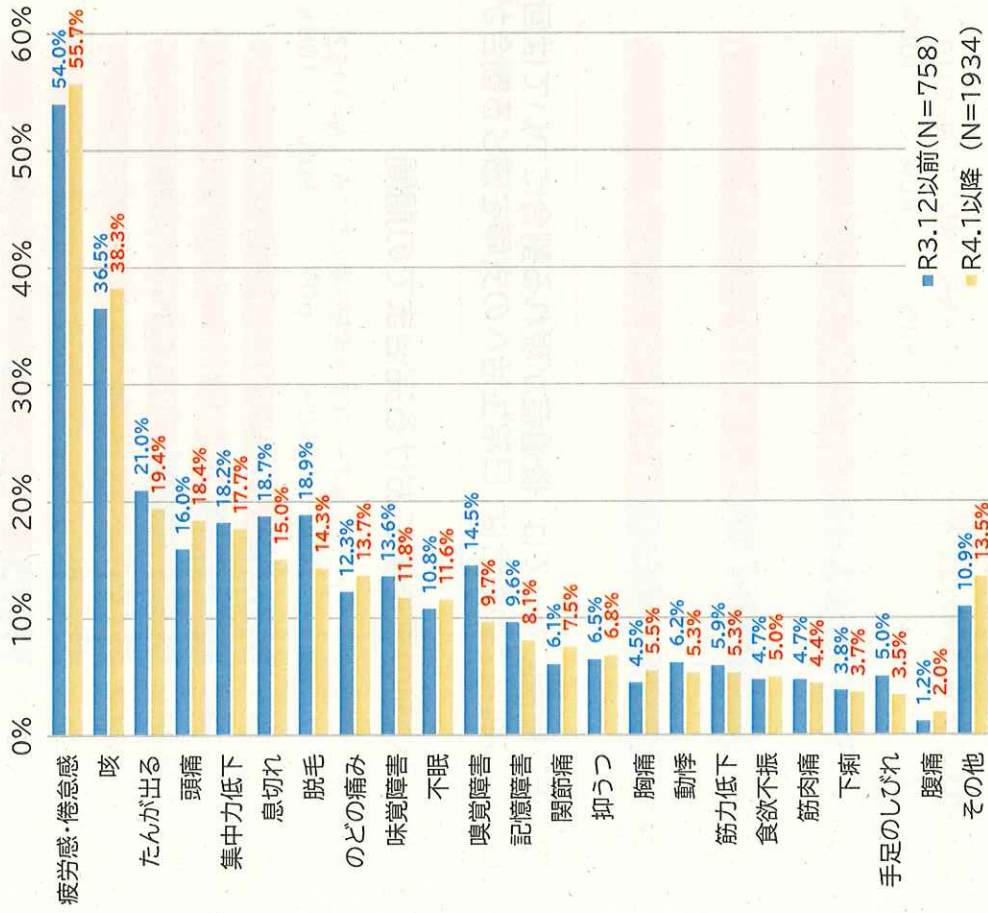


・ 男女別で見ると、「集中力低下」は男性の割合が高かった一方、「疲労感・倦怠感」「咳」「頭痛」「脱毛」「味覚障害」「記憶障害」「抑うつ」などで女性の割合が高くなっている。

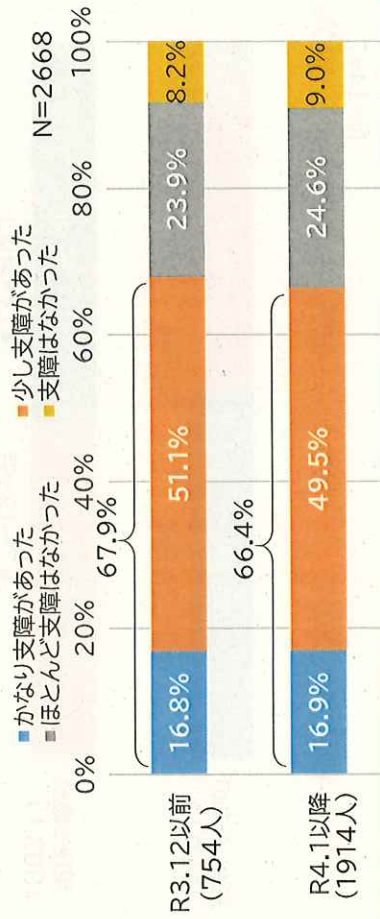
3 アンケート結果

(2) 症状

③ 感染時期との関係



④ 日常生活への支障の程度(感染時期別)



・ 日常生活への支障の有無を感染時期別に比較したところ、支障があった人の割合がオミクロン以前の方が1.5ポイント高かった。

・ オミクロン前後で特徴的なものは、オミクロン以前で比較的割合が高かった「息切れ」「脱毛」「味覚障害」「嗅覚障害」などがオミクロン後では割合が下がっており、「疲労感・倦怠感」「咳」「頭痛」「のどの痛み」などの割合が上がっている。

3 アンケート結果

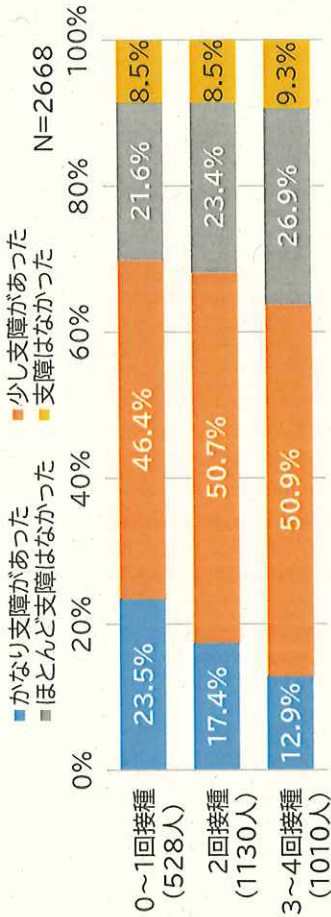
(2) 症状

⑤ ワクチン接種との関係

◎後遺症の有無(接種回数別)

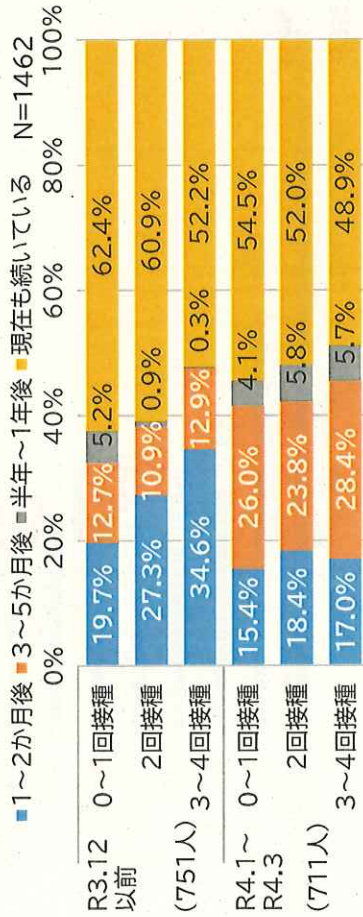


◎日常生活への支障の程度(接種回数別)



・ ワクチン接種については、後遺症が現れる割合については回数により大きな違いはなかった一方、接種回数が2回以下の場合に比べて、3回以上の場合は、日常生活への支障を感じる割合が低くなっている。

⑥ R4.3以前の罹患者における完治までの期間



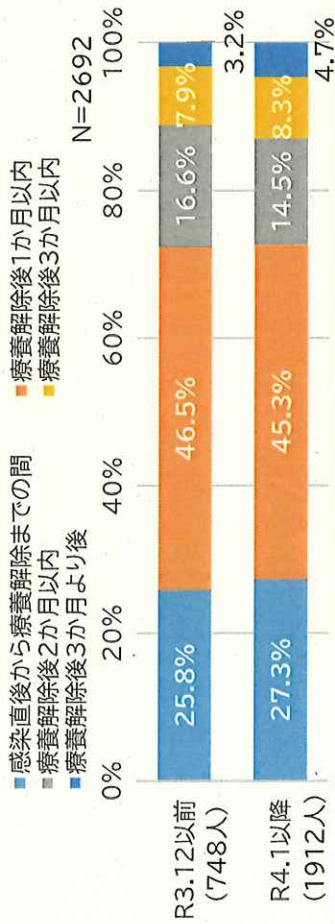
・ 完治までの期間を感染時期で見ると、完治した人については「1~2か月後」が多く、オミクロン前では「1~2か月後」が多く、オミクロン後では「3~5か月後」が多い状況であり、ワクチン接種回数別で見ると、ワクチン接種回数が多いほど完治した人の割合が高くなっている。

3 アンケート結果

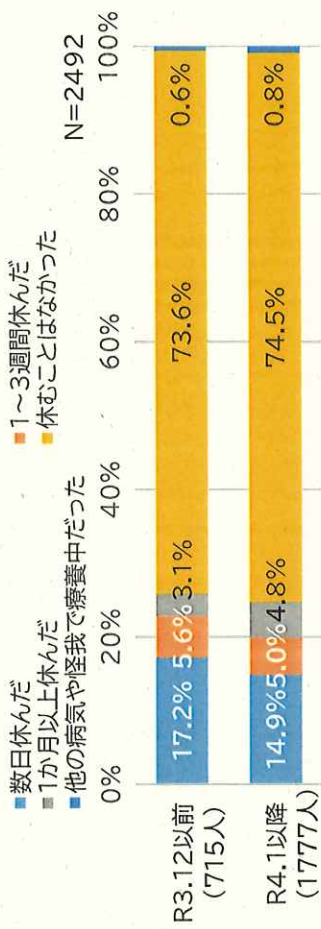
(2) 症状

⑦ 一番つらい症状

◎一番つらい症状の出現時期



◎一番つらい症状で休んだ期間

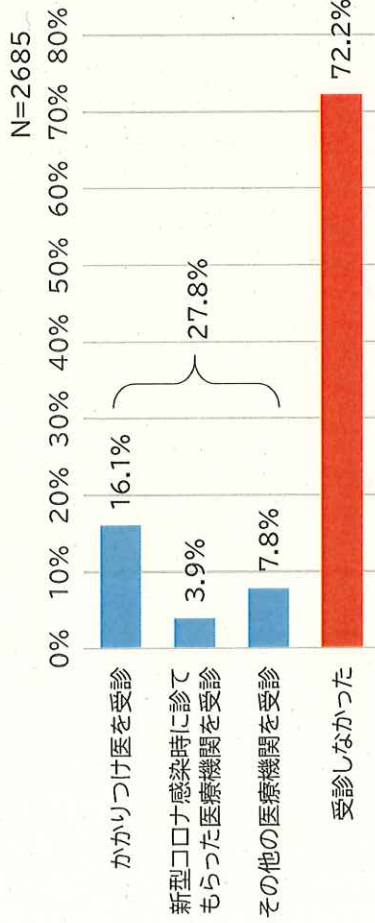


- ・ 後遺症で一番つらい症状が出現した時期は、「療養解除後から1か月以内」が最も多く、後遺症で一番つらい症状で仕事(学業)を休んだことがある人は、2割強となっている。

3 アンケート結果

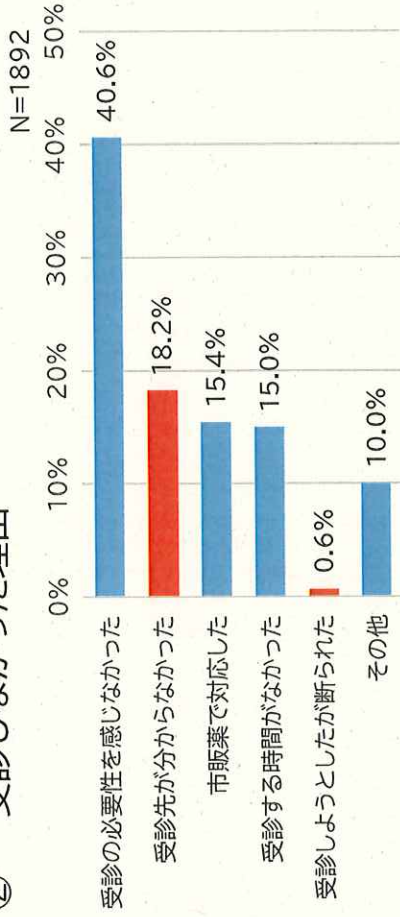
(3) 受診状況

① 医療機関の受診の有無



・ 後遺症の症状に係る医療機関の受診については、受診をした人が27.8%であり、7割以上の人が受診していません。

② 受診しなかった理由

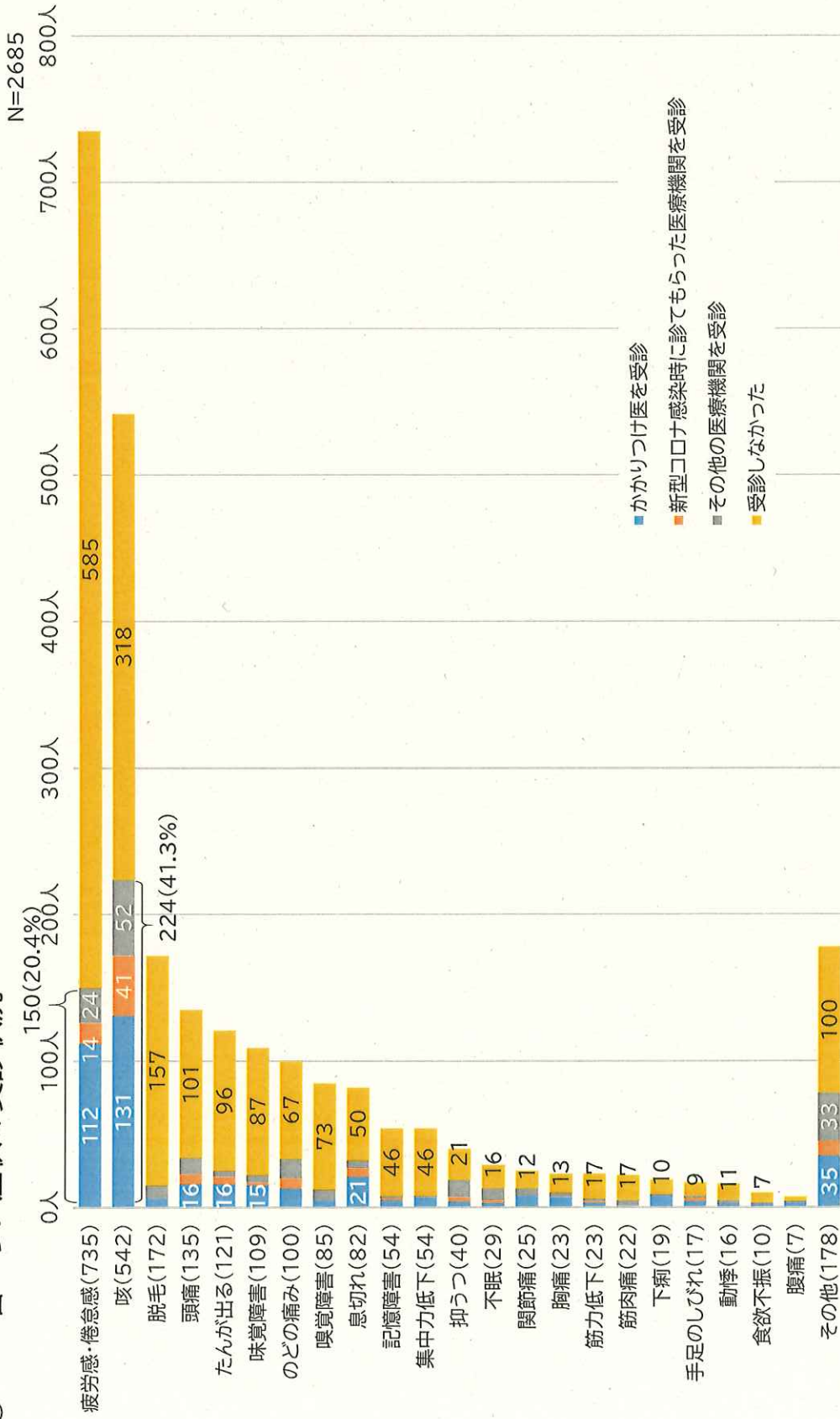


・ 受診しなかった理由としては、「受診する必要性を感じなかった」との回答が4割以上あった一方、2割弱の人が「受診先が分からなかった」「受信しようとしたが断られた」との回答を選択している。

3 アンケート結果

(3) 受診状況

③ 一番つらい症状の受診状況



・一番つらい症状ごとの受診状況を見ると、受診者数が最も多かったのは「咳」で、542人中224人が受診(41.3%)、続いて「疲労感・倦怠感」が735人中150人が受診(20.4%)となっている。